

白山神社由緒

祭神

菊理姫命
伊弉諾命
伊弉册命

例大祭日 九月二十一日

当社人皇六十二代村上天皇天曆二年(九四八)九月加賀一宮白山神社を武藏国豊島郡元岡本と号して今の本郷元町に奉勧請す。建武四年(一、三三八)足利尊氏公により国家平安御祈願所に命ぜられ永百貫文之御判物を賜る。元和二年(一、六一六)徳川秀忠公の命により小石川白山御殿(果鴨原)へ遷座、慶安四年(一、六五一)徳川家綱公の用地と相成り、明暦元年(一、六五五)現社地に移奉す。同年社頭其外造立に相成り、後に五代將軍綱吉公と生母桂昌院の信仰を受けらる。

元禄年中までは本社摂社末社寄附神器宝庫は勿論神官宅まで旧幕府より修繕を加えられる。寛文六年(一、六六七)九月二十九日祭礼賑々しく執行致すべき旨申し渡され、御戸帳並びに祭具等寄附あり、元禄三年(一、六九〇)正月二十九日旧幕府より社領三拾石寄附之あり、右朱印元禄六年(一、六九三)九月二十九日戸出能登守相渡さる。

元禄十六年(一、七〇三)十一月二十九日小石川辺より出火、本社摂社末社宝庫並びに祭具のこらず社中惣門等まで悉く類焼し、宝永元年(一、七〇四)六月十四日加藤越中守掛にて仮殿手当として金五百両松五千挺寄附あり再建せられたるも享保三年(一、七一九)三月回祿の時再び火災にあい宝物什器祭具等悉く焼失す。後百数十年間本殿のみ建立しありしに明治三十二年拝殿建設、昭和八年改修し同九年九月十八日盛大に正遷座大祭施行す。(なお白山御殿の地名は元白山神社社地なるが故であり、小石川の地名は始め加賀国石川郡より奉勧請当社鎮座の旧地に倣へるが故なり)

当社は明治元年勅祭神社に準じられ(準勅祭神社)東京十社の一つである。

八幡神社由緒

祭神

譽田別命 姫命
八幡太郎義家公

例大祭日 八月十五日

当社は人皇七十代後冷泉帝永承六年(一、〇五一)四月奥州安部の一統王威を掠む、是に拠て征伐勅宣を蒙り伊豫守頼義、御嫡男八幡太郎義家両大將軍は官軍を率て発向したもう、当所は其の時の奥州街道なり。然るに敵將此の辺に兵を伏駒を込数千の薪を集め焼亡さんと計るとき、両大將当社前の桜木に御旗を立て岩清水八幡宮を奉勧請御祈誓ありて後、一戦に敵を討捕し討伐後ここに感謝の意をもつて八幡神社を創建せらる。白山神社の境内の地主神に在りて御神徳顕著にして崇敬者多し。昭和五十年老朽化せし社殿改修し同年十二月十日遷座祭施行す。(なお白山神社氏子中の協賛による)

◎御神木 旗桜

この桜木は旗桜と言ひ、八幡太郎義家御旗を立給いて祈願せられた時の桜木にて、(古木は社務所に)若木を育てたものであり、花の真に旗の形なる花卉ある名花なり。

関東松尾神社由緒

祭神

大山咋命
中津島姫命

例大祭日 十一月吉日

当社は関東松尾神社と称し、江戸時代白山神社の境内地に京都嵐山松尾大社の御分霊を奉勧請す。昭和二十八年六月酒類関係業者により、老朽化せし御社を改修し盛大に遷座祭を施行す。本社なる松尾大社は大宝元年京都嵐山北松尾山に鎮座せられ、京都の大社にて旧制官幣大社である。この神酒造の神として世に著れ、酒蔵札にも『奉祭祀 秦氏神 常磐堅磐夜乃守利日乃護利幸賜』とあり、酒造家の尊信が頗る厚く、現に遠近より酒造・酒販業者の賽する者甚だ多い。この勧請社なる当社も酒類関係業者の尊崇厚く、毎年新嘗月なる十一月に吉日を選んで大祭が厳修せられている。